

教科：理科

1. 受験勉強のやり方（何をすればいいか）

全体をばらばら見たときに7割くらい理解できる問題集をやってみましょう。
解らない問題があった場合、チェックだけ入れて先に進んで構いません。
一通り終わった後で、得意・不得意の傾向が見えると思います。
再確認が終わったら、次も、その時点での実力で7割くらい理解できる問題集に取り組む。
冬までに2冊、理科を重点的に伸ばしたいなら3冊もやると、受験の際に「これ見たことあるな」という問題が多くなっていると思います。

2. 学習のポイント

本来、理科を楽しもうと思うなら、復習が良いのですが、この一年に関しては予習が重要です。
まず自分で見ておいて、解らない点・解りにくい点をつかんでから授業に参加しましょう。
ノート提出の際、まとめ方が上手くなった・見やすくなったと感じる生徒が多かったです。
要点を押さえたノートを取ろうと思えば、授業への取り組み方は自然に変わると思います。

化学（薬品をつかった実験）・物理（電気や力など）：理科系の人間は面倒くさがりが多いということを理解して臨みましょう。一例ですが、水素の元々の名称は Hydrogenium です。
こんなの一々書きたくないよ！という人達が元素記号「H」を作りました。

「覚えなきゃいけない！」ではなく、「覚えて、楽しんでやるかw」くらいのつもりでいた方が、人間の脳は受け入れやすいです（脳は「～しなければならない」、「～してはいけない」を受け入れにくいように出来ているそうです。）

物理系では、同じく例を挙げると、「I：電流の略（量記号と言います）」、「A：電流の単位」の区別をきちんとしましょう。量記号が身長なら、単位は cm みたいな感じです。

生物・地学：計算が殆どないので、暗記中心です。別々に覚えるだけでなく、目の仕組みと物理系の空の色の仕組みなどと絡めて覚えると忘れにくいです。

3. 新たに準備するもの

自分のレベルに合った問題集（背伸びはしない方が良いでしょう）。何を言っているのか解らない問題ではやる気がなくなり、嫌悪感を生みます。